

東日本大震災復興活動

ヒューマンパワーを東日本に！

2013年度は、全国の会員や支援者から寄せられた救援募金をもとに、主に宮城県本吉郡南三陸町への支援物資提供、役職員・ボランティア派遣など、力を結集させて各種活動を継続することができました。

本項では、2014年3月末までの概況をご報告いたします。

南三陸町について

宮城県本吉郡南三陸町(みなみさんりくちょう)は、日本の宮城県北東部に位置し、太平洋に面する町です。いわゆる「平成の大合併」における志津川町と歌津町の合併によって2005年(平成17年)に誕生、現在本吉郡に属する唯一の地方公共団体(市町村)となっています。

2011年(平成23年)3月11日、南三陸町は震度6弱(観測地点:歌津地区、志津川地区)を記録しました。更にこの地震が引き起こした大津波は町内の3つの川を逆流し、1960年(昭和35年)のチリ地震による津波の到達地点を越えて内陸深く進入了。

災害ボランティアセンターが設置された「ペイサイドアリーナ」は志津川、つるし雛講習会場やカフェあづまーれがある「平成の森(南三陸町社会福祉協議会仮設事務所)」は歌津、桜を植樹した神割崎キャンプ場は戸倉にあります。

◎南三陸町の震災前人口と現在

	震災前	現在
人口	17,666	14,505
男性	8,655	7,101
女性	9,011	7,404
世帯数	5,362	4,723

* 南三陸町HPより(震災前:平成23年2月末、現在:平成26年3月末)



総勢144名の大部隊

◎震災全体の被害状況

	全国	宮城	南三陸町
死者数	15,885	10,483	619
行方不明者数	2,623	1,282	217
全壊数	127,305	82,914	3,143
半壊数	272,941	155,085	178
一部破損数	741,752	222,858	1,204

* (情報源) 全国:警察庁(2014.4.10)、
宮城県・南三陸町:宮城県ホームページ(2014.3.31)
* 上記にはその後発生した余震等の地震の被害を含みます。

活動の概況(2014年3月末現在)

活動期間:2011年3月19日～現在

派遣人数:延べ 390人(2013年度37名)

活動日数:延べ 1714日(2013年度108日)

派遣回数:63回(2013年度7回)

活動場所:第1次隊 宮城県仙台市若林区

第2次隊以降 宮城県本吉郡南三陸町

活動拠点:宮城県石巻市桃生町内 JHP会員宅

活動実績:ボランティアセンター立ち上げ及び運営、炊き出し、町内片付け(写真A)、思い出探し隊(写真等の洗浄及び展示)、保育所支援、物資仕分、カフェ移設及び手伝い、養殖種付け及び収穫支援(写真B)、漁協支援、つるし雛講習会(写真C)、復興祈念桜植樹、植樹後手入れ・草刈り作業(写真D)など。



A



B



C



D



プロジェクトの背景

2011年3月11日、日本における観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した東日本大震災により、太平洋沿岸に大津波が発生し甚大な被害をもたらした。JHPでは設立以来、海外の教育支援と国内外の災害救援に取り組み、過去にも類をみないこの惨事に対しても、阪神淡路大震災や中越地震などで救援活動を行った経験を活かし「できることから」活動を継続している。



植木職人より桜植樹の指導を受けるボランティア

◎活動の主な経過

月日	主な内容
2011/3/11	東日本大震災発生。
3/14	救援活動実施を決定。ホームページに情報掲載開始。救援募金開始。
3/19	第1次隊3名派遣。宮城県仙台市若林区の蒲町小学校避難所に救援物資(食料、水、生活用品)を届ける。
3/24	第2次隊4名派遣。翌25日に南三陸町に救援物資を届ける。同町視察の際に、災害ボランティアセンター立ち上げと運営サポートの要請を受ける。以後、運営スタッフの継続派遣を開始。
3/27	蒲ノ本市で被災者支援のイベントが行われ、蒲ノ本事務所スタッフが募金に参加。JHPのマーチングバンドも演奏で協力。
4/2	第5次隊期間中に企業との連携で炊き出し活動開始。
5/15	第11次隊にて小山内代表が南三陸町と若林区を視察。
8/30	南三陸町での8月隊活動実施(第30次隊)
10/1	第33次隊にて小山内代表が二度目の南三陸町視察。
10/27	南三陸町内のカフェ・あづまーれに防寒・防風シート設置。
11/29	企業からの寄付による杖を届ける。
12/7	企業からの寄付によるシルバーカーを届ける。
12/20	災害ボランティアセンター運営サポート派遣の引継ぎを完了し、長期派遣を終了。
2012/2/18	企業から寄贈されたユニットハウスを漁協仲介のもと、南三陸町津の宮、水戸部2か所に設置。
3/12	協力団体三島RCと連携して仮設住宅近くの集会所でつるし雛講習会実施。
4/1	蒲ノ本事務所ローカル3名が研修の一環で南三陸町を訪問。
6/16	南三陸戸倉地区に9軒のユニットハウス寄贈を完了。
7/30	第2回つるし雛講習会実施。
10/21	第50次隊にて小山内代表が三度目の南三陸町視察。
11/23	第1回復興祈念桜植樹。神割崎キャンプ場他に135本を植樹する。
12/26	南三陸戸倉地区の自然豊へユニットハウスを寄贈。
2013/1/22	第3回つるし雛講習会。
3/29	第2回復興祈念桜植樹。町内の個人宅を含めて170本を植樹する。
10/9	第4回つるし雛講習会。
11/2	第3回復興祈念桜植樹。248本を植樹。カンボジア活動で友好関係のある東芝グループ連合と連携。(写真E、F)
2014/1/11	JHP20周年記念の集いにて、南三陸町産わかめ、仙台みそ等販売。(写真G)
3/23	第4回復興祈念桜植樹。195本を植樹。これまでの合計は748本となる。



E



F



G

参加者の感想

東日本大震災はもう過去の出来事なのではないか？ それは絶対に違います。今でも仮設住宅に避難をされている人たちが、仕事を探している人たちはたくさんいます。行方不明の方たちも残念ながら数多くいます。1年に1回でもいい・・・震災を風化させないためにも私たちがボランティアに行く意義は必ずあると思います。機会を見つけて、また南三陸町に行きたいと思います。

(第57、61次隊:渡部岳紘)

今回のボランティアを通じて得たのは、震災の悲しい事実を知ったことだけではなくではありません。私が行って何よりも良かったと思えたのは「人の力」の素晴らしさを知ることができたことです。被災地の方々の目は未来に向いていました。町の未来のために、子供の未来のために、1人ひとりが復興に向けて前向きな姿勢でした。そして、町の人と協力し懸命にボランティアに取り組む様々などから来た方々。人のために行動を起こすことはこんなに素晴らしいものなのだと感じました。(第60次隊:有原千紘)